

いつも・ちょっと・トラブル

ICTを 生きた学びに

1人1台端末が導入されたことについて、肯定ばかりでなく、否定的な声も聞こえてきます。それらは次の五つに集約できます。

①「端末が壊れる」問題

使用頻度が高ければ、当然ながら壊れる確率は高まります。高価な機器の使い方を児童・生徒が学ぶ貴重な機会であると考え、大人が温かく見守ることも必要だと思います。

②「学習効果」問題

ICT活用の目的の一つは、情報化社会で生き抜く力をつけることであり、教科学習の効果のみを期待するものではありません。ICTを使えば必ず学力向上が見込めるわけではなく、その使い方が重要となります。

③「健康面への影響」問題

成長期の児童・生徒が情報端末を使用する場合、大人以上に健康面への留意は必要です。しかし、学校での端末使用を控えたとしても、生徒が学校外でスマートフォンなどを使用する時間はそう大きく変わらないでしょう。だからこそ、学校で正しい「使い方」を身につけさせ、ネット依存などの危険性や健康への悪影響について学ばせるべきではないでしょうか。

④「ネット接続禁止」問題

インターネットは危険であるという理由で、児童・生徒がネット接続できないように設定している学校もあります。「交通事故の危険性があるから、安全性を重視して通学を禁止にする」というような極論は、生産的ではありません。



ん。交通ルールと同様に、ネットの世界にも、自分たちを守るために守るべきルールがあることを教えるべきではないでしょうか。

⑤「機器トラブル」問題

授業中に起きたICTのトラブルは、問題解決の方法を学ぶ生きた教材です。Wi-Fiが途切れたって、端末がうまく動作しなかったって、それをクラス全体で解決することも学びになります。

いずれにしても、ICT活用でいちばん大事なのは、どんな力をつけさせたいかを考えることです。つまり、ICTを教師がとまどいなく使えることよりも、試行錯誤しながらも児童・生徒自身が活用していくことが重要になります。「どんな力をつけさせたいか」「どんな授業がしたいか」という根源的な思いに立ち返って、学びの場にICTを取り入れていってみてください。



なか がわ ゆう や
中川右也

三重大学教育学部准教授・博士(教育学)。
光村図書 中学校英語教科書『Here We Go!』編集委員。著書に『英語のしくみと教え方 こころ・ことば・学びの理論をもとにして』(共著・編／くろしお出版)など。